

介護老人保健施設しおさい

症例概要 ご利用者 : 80代 女性 要支援2
 利用期間 : 令和1年11月～現在 通所リハビリご利用中
 既往歴 : 大動脈弁狭窄症、変形性股関節症、変形性膝関節症、高血圧症

股関節の術後リハビリを行い自宅復帰。しかし、痛みや痺れは続いており、ご本人の希望からリハビリ目的で当施設をご利用となる。ご利用前から右肩の拘縮と手の震えあるも、ご本人としては下肢機能の訓練を優先したいと希望。歩行訓練など頑張り状態安定していたが、大動脈弁狭窄症を発症する。

内 容

もともと手芸が趣味でコースターや服なども手作りする程でしたが、肩の痛みや手の痺れのために段々とやらなくなっていました。「股関節の手術をして歩けなくなつては困る」という思いから、下肢の訓練を重視して積極的に歩行訓練を頑張っておられました。ですが、それも大動脈弁狭窄症を患い、無理が効かなくなってからは気落ちされ、活動意欲も低下してしまいました。

これまで通りの活動が難しくなり、定期的で開催しているリハビリ会議で今後の方向性を検討していた所、同意書のサインを書きながらふと「昔はもっと器用だった」「いま着ている上着も自分で編んだ」など手芸の話ができました。これまでは下肢の訓練に力を入れたことで、あまりやってこなかった上肢の訓練ですが、手芸などの机上作業を目的としたものであれば身体への負担も少なく、元気な頃のように、活動性を高め、生活の質を向上することができるのではと考え、ご本人に話をしたところ同意も得られたため、訓練プログラムに取り入れました。

最初は出来なくなっている事に対する不安と緊張が強く見られましたが、巧緻動作訓練をやっていくうちに手ごたえを感じられるようになっていき、想定よりも早く編み物に挑戦するまでに至ります。昔と比べるとごちなさや衰えを感じつつも、久しぶりに編み棒を触ったことで嬉しそうな表情を浮かべられていました。「どうせ出来ないからしなくていい」から「やりたい」に変わった瞬間でした。

それからは急速に活動意欲が高まり、長い時間できるようにになりたいと手の筋力や耐久力を高める訓練にも取り組み始めました。自宅での生活も、これまでは横になって一日テレビを見てすごしていた時間が、少しずつ編み物をする時間に変わり、充実しており、生活の質が向上し、ご本人らしい生活を取り戻すことができいております。今は「先生に座布団作ってやるな」と大きな作品にも挑戦しています。

今回はリハビリ会議での何気ない言葉を拾えたことで、諦めていた手芸の再開へと繋がられました。これからもご利用者の言葉を聞き漏らすことがないようアンテナを広げて日々の業務に取り組んでいきます。



と思います。